

ムラサキシジミ越冬成虫の産卵

井原 道夫

天龍村でムラサキシジミ越冬成虫の産卵を目撃・調査することができたので報告する。

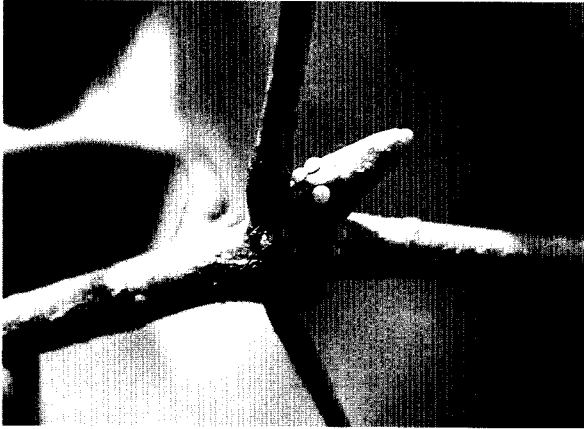


図1 アラカシの芽に産まれた卵 (2002. 4. 2 天龍村伊那小沢)

産卵行動目撃：天龍村小沢, 16. IV. 2001, 筆者観察.

産卵行動目撃：同地, 28. III. 2002, 筆者観察.

成虫 3 exs 目撃・卵確認：同地, 2. IV. 2002, 筆者・浜正彦氏観察.

幼虫・卵確認：同地, 25. IV. 2002, 筆者観察.

産卵を確認したのは、日当たりの良い林縁に生えているアラカシのひこばえであった。2001年4月16日と2002年3月28日に観察した産卵行動は、手の届かない場所であったため、卵の確認はできなかった。2002年4月2日の調査では、卵の産付位置は茎部分への産付が1例、あとはすべて新芽周辺部であった。多くの場合1卵ずつの産付であったが、4卵まとめた産付も見られた。

2002年4月2日の調査では多数の卵を確認したが、4月25日の調査で確認できたのは、わずかに若令幼虫2頭だけであった。

天龍村における産卵時期は、早い時で3月下旬から、通常は4月上旬からと思われた。

(いはら みちお/〒395-0004 飯田市上郷黒田571)

飯田市におけるモンキアゲハの記録

四方 圭一郎

モンキアゲハは長野県内では各地で採集、目撃例があり(丸山, 1999)、天龍村など南部の温暖な地域では、ユズなどを食樹として土着していることが報告されている(井原・白鳥, 1972)。

筆者は飯田市においてモンキアゲハを目撃および採集しているので報告する。

<目撃> 1ex., 飯田市水晶山(660m), 3. VII. 2002, 筆者確認.

<採集> 1♂, 同地, 28. VIII. 2002, 筆者採集・飯田市美術博物館保管.

引用文献

井原道夫・白鳥一樹, 1972, 長野県下におけるアオスジアゲハとモンキアゲハの土着について, まつむし, 43, 34-38.

丸山潔, 1999, 田下ほか編「長野県産チョウ類動態図鑑」, 159. 文一総合出版, 東京.

(しかた けいいちろう/飯田市美術博物館)

伊那谷におけるラミーカミキリの分布に関する新知見

四方 圭一郎

ラミーカミキリ *Paraglenea fortunei* (Saunders)は、長野県内においては1992年に天龍村で発見されたのが最初の報告である(吉沢, 1992)。その後、伊那谷南部においては飯田付近まで分布を拡大していることを報告した(四方・井原, 2000・四方, 2001)。

本種はさらに北上を続けているようで、伊那谷で新たに2カ所で生息を確認したので報告する。

1♂, 喬木村富田(標高580m), 21. VI. 2002, 筆者採集・飯田市美術博物館保管.

水田の土手に生えたカラムシ群落で採集した。

1♂, 松川町生田峠(標高950m), 9. VII. 2002, 大田秀子氏採集・飯田市美術博物館保管.

植栽されたアオイ科のウスベニアオイ *Malva sylvestris* に集まっていた個体を、採集し届けていただいた。複数個体がみられたそうである。

これまでに確認されていた伊那谷での本種の北限は

飯田市であった(四方, 2001)。松川町はそれより10 kmほど北に位置する。近年、伊那谷においてはツマグロヒョウモンやクロコノマチョウ、アオマツムシなどの分布北上が著しいが、本種もかなりのスピードで北上している種の一つだと思われる。今後の分布変化に注目したい。

松川町でのラミーカミキリの生息を教えていただき、標本を採集して筆者に届けてくださった、松川町の大田秀子さんにお礼申し上げます。

引用文献

- 四方圭一郎・井原道夫, 2000, 長野県伊那谷におけるラミーカミキリの分布状況. 伊那谷自然史論集, 1, 35-36.
- 四方圭一郎, 飯田市におけるラミーカミキリの追加記録. 伊那谷自然史論集, 2, 68.
- 吉沢尚広, 1992, 長野県におけるラミーカミキリの初採集記録. 月刊むし, 261, 37-38.
(しかた けいいちろう/飯田市美術館)

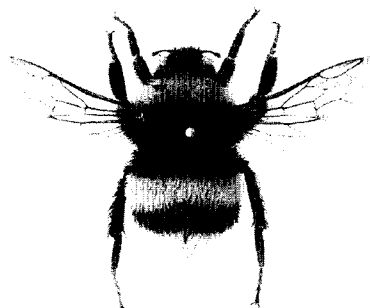
セイヨウオオマルハナバチを 飯田市で採集

四方 圭一郎

セイヨウオオマルハナバチ *Bombus terrestris* (Linnaeus) は、1991年よりトマトの受粉用にオランダやベルギーから輸入された昆虫である。1996年には北海道で自然巣が見つかり、日本で野生化していることが確実となった(鷺谷・鈴木ほか, 1997)。

長野県においては、2001年5月1日に諏訪市蓼ノ海での働き蜂1頭の記録が報告されている(保全生態学研究会ホームページ内のセイヨウオオマルハナバチの最新目撃情報*)。

本種を飯田市で採集したので報告する。



1 ♀, 飯田市追手町(標高500m), 9. VIII. 2002.
筆者採集・飯田市美術館保管。

飯田市美術館の庭で採集した。採集時は、生きていたがうまく飛べないらしく、地面付近を旋回していた。鳥などにおそわれた可能性もあるが、目で見限り外傷は確認されなかった。

本種の記録などについてご教示くださった、長野県自然保護研究所の須賀丈博士にお礼申し上げます。

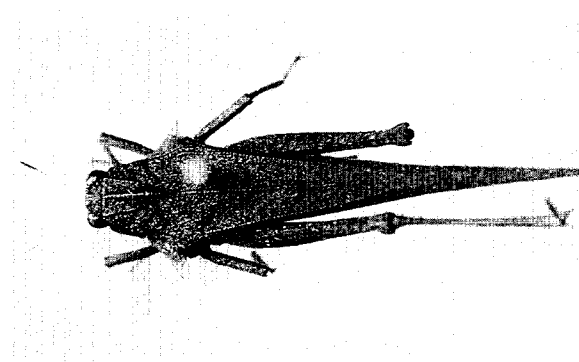
引用文献および注

- 鷺谷いづみ・鈴木和雄・加藤真・小野正人, 1997, マルハナバチハンドブック. 49p. 文一総合出版, 東京.
- *http://www003.upp.so-net.ne.jp/consecol/japanese/maruhana/maruhana_info.html
(しかた けいいちろう/飯田市美術館)

伊那谷でのトゲヒシバツタの記録

小林 正明

トゲヒシバツタ *Crietettix japonicus* は暖地では普通種で湿地によく見られる。県下では記録がなかったが、高森町で採集したので記録しておきたい。



1 ♀, 高森町湯が洞(標高690m), 2002年9月22日, 小林正明採集。

同地は湯が洞の温泉近くに新しくできた農道沿いの小さな湿地で、ガマなどの水生植物が生えている。またハッチョウトンボも生息している。湿地の中はイノシシと思われる動物に攪拌されていた。この場所では本種を以前に目撃したことがあったので、確実な記録とするために採集を試みた結果、記録した。

(こばやし まさあき/〒395-0001 飯田市座光寺宮崎2155)